

# 卓越大学院プログラム 平成30年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成30年度	整理番号	1811
機関名	京都大学	全体責任者（学長）	山極 壽一
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	木本 恒暢
プログラム名称	先端光・電子デバイス創成学		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

IoT (Internet of Things) 革命、車の自動運転と完全電動化、スマートグリッドや再生可能エネルギー導入によるエネルギー革命など、現在、人類社会はエレクトロニクスを中心とする大きな変革期を迎えている。このような社会システムや産業構造を刷新しうる変革期に、アカデミア、産業界、官公庁において深い学理に根差した思考力と広い視野で当該分野を牽引する国際的リーダーを育成することが喫緊の課題となっている。本提案は、京都大学が国際的な優位性を有する光・電子理工学および先端デバイス分野を核として、我が国を代表する光・電子・電気関連の企業群、国際水準の研究力を有する国公立研究所、世界トップレベルの海外有力大学と強固に連携する修士・博士一貫の教育プログラムを推進する大学院構想である。

【本卓越大学院の必要性と特徴（調書P.5）より】

### 2. プログラムの進捗状況

2018年度は、卓越大学院（教授会・事務室）の組織ならびに設備等の立ち上げを実施すると共に、2019年度入学の学生募集および合格者の選抜を行い、3月には連携機関と合同で、学内外に向けて卓越大学院キックオフシンポジウムを開催した。具体的な実績は以下の通りである。

- ・本卓越大学院を京都大学大学院横断教育プログラム推進センターのもとに設置し、プログラムコーディネーターおよび2名の副プログラムコーディネーターを含む教授会を組織した。
- ・プログラムの円滑な運営を図るため、プログラムマネージャーおよび複数の事務補佐員等からなる卓越大学院事務室を設置した。
- ・11月に本プログラムの説明会を実施した後、12-1月に学生募集を開始し、3月に19名の最終合格者を決定した。
- ・本プログラムを紹介するパンフレットを作成し、ホームページを立ち上げるなど、広報活動を進めた。
- ・卓越大学院キックオフシンポジウムを3月5日に京都大学桂キャンパスで開催し、約200名が参加した。山極総長の開会挨拶にはじまり、国内連携機関

プログラム担当者からの講演や、公開パネルディスカッション等により、卓越大学院の目指すべき方向性の議論と、全卓越大学院関係者（学生を含む）との意識共有を行った。

- ・3月1日に日本学術振興会からプログラムオフィサーに来訪いただき、状況を視察いただくとともに意見交換を行った。
  - ・補助金を用いて高度かつ共通基盤的な設備を導入し、4月に入学する履修生が即座に世界最先端の研究に着手できる環境を整備した。
- 上記のとおり卓越大学院を順調に立ち上げることができ、2019年4月からの学生の受け入れ、研究教育に支障の無い環境を構築できた。

#### 【平成30年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

##### ・本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて

2018年度は、研究科を横断する大学院教育プログラムの全学的な運営組織として、大学院横断教育プログラム推進センター（センター長：教育担当理事）を4月に新設し、総長、教育担当理事の下、関連する研究科等が責任を持ってその運営に協力・支援する枠組みを整備するとともに、大学院改革の推進及び学位記付記型プログラムとしての教育の質保証を実現するため、全学的な実施体制を構築した。センターには、各研究科長、プログラムコーディネーターを構成メンバーとする大学院横断教育プログラム運営協議会を設置し、本卓越大学院の実施、継続、発展に向けた責任の共有と学内における協力・支援体制を構築した。加えて、本協議会の下に、教育プログラムの質保証を始めとする実施内容の企画、検証、評価（PDCA）を行うため、プログラム関係者以外に全学教育制度委員会委員等の外部的視点を確保した構成メンバーによる運営委員会を設置した。以上、2018年度は、全学的な観点から大学院教育改革を推進する仕組みを整えた。

次年度以降の見通しについては、履修者の学修情報を一元管理し可視化するための学位プログラム統合教務情報システムの構築・拡充、継続的な産学連携体制の検討、持続できる経済支援制度の構築に向けて大学全体として取り組み、本卓越大学院を本学の大学院改革の先鋒として、基礎的な学理から応用までを俯瞰し得る卓越した博士人材を育成するため、研究科の境界を越えた垂直統合型大学院教育のモデルケースとして引き続き発展させる。